



「いのち」を、 「みらい」へ つなぐ役割を

いのちは、いただきますとごちそうさまの
間にあるもの。たくさんの野菜や果物など
の農作物、牛や豚、鶏などの動物から、
いただくいのち。食べることは、いのちを
つなぐこと。いのちは、食べる人、育む人、
みんなの笑顔をつなぐ。地域とともに、
自然とともに、これからもずっと、つながって
いきますように。宮崎の、日本の、そして、
地球のみらいへ。

私たちは、食を通じて「いのち」をつなぎ、
誰もが豊かに暮らせる「みらい」へつなぐ
ための役割を果たします。

JA宮崎経済連グループ

PRODUCTION BASE



Group
Profile

<http://www.kei.mz-ja.or.jp/>

Our History

あゆみ

農業協同組合は、農会から産業組合へ、さらに農業会という農業団体の時代を経過し、戦後昭和22年に制定された農業協同組合法にもとづき設立されたものである。

以来約70年間、農家組合員の協同の力でつくられた組織として、販売・購買・信用・共済等各種の事業を行い、農家の豊かな営農とくらしを求めて活動している。JA宮崎経済連の前身は、大正6年の産業組合法により発足した信用販売購買利用組合連合会にさかのぼるが、JAの県段階組織として農家およびJAの大きな期待のもとに昭和28年4月1日、当時の販売・購買の二連合会が合併して設立された。

その後、北諸県郡を一円とした南部販購連と昭和34年10月1日に合併し、さらには県酪連と平成13年4月1日に合併を行い今日に至る。

Mission

使命

- 生産者の所得向上
- 宮崎県農業の発展
- 食の架け橋としての社会貢献
- 相互扶助による連携

Philosophy

経営理念

JA宮崎経済連は「変革」「創造」「貢献」、この3本の柱に基づき、協同組合理念に基づいた人財を育成しながら、経営資源を総合的に活用し、宮崎県農業の発展と組合員の暮らしのために、最高の機能を発揮します。

変革

Revolved Transform

私たちは、協同組合として常に自らの変革に努め、組合員、消費者、社会のニーズに応えることのできる組織になることを目指します。

創造

Creation

私たちは、農業県「みやざき」の持続的発展のために、新たな事業の創造に努めます。

貢献

Contribution

私たちは、「食」と「農」を通じ、豊かで活力ある地域社会を実現すべく地域と共に取組みます。



未来志向で

JA宮崎経済連は、相互扶助という協同の精神のもと、組合員・JAと共に農業の持続的な発展と、組合員・地域の皆様の幸せで豊かな生活を実現することを目指し、使命と経営理念に基づき事業に取り組んでいます。

農業を取り巻く環境は、グローバル化に加え、自然環境や人口・産業等の社会構造が変わる中で多数の課題を抱えています。そこで私たちは、本会に求められる役割を発揮すると同時に、急速に変化する環境にいち早く対応することで、「魅力ある農業」「豊かな生活」そして「持続可能な社会の実現」への貢献を目指して参ります。

今後も、組合員・地域の皆様に信頼される組織を目指し、宮崎の農業と地域を支える組織として未来志向で事業に取り組んで参ります。

代表理事会長
坂下 栄次



代表理事会長
坂下 栄次



代表理事副会長
平島 善範



常務理事
木村 能久



代表監事
川原 博之



常勤監事
田丸 浩

Overview

概要

名称 : 宮崎県経済農業協同組合連合会
設立 : 昭和28年4月1日
所在地 : 〒880-8556
宮崎県宮崎市霧島1丁目1番地1 JAビル 4F・5F
会員数 : 正会員21名、准会員14名
役員数 : 理事13名、経営委員2名、監事4名
職員数 : 537名（内正職員数287名）
事業区域 : 宮崎県内一円

（令和5年3月31日現在）

Our Keyword 本会を取り巻く環境認識とキーワード

- 高齢化・後継者不足による生産量減少見通し
- 遊休地・耕作放棄地の増加
- 加工業務向けの品質・価格重視の生産体制構築が必要
- 協同会社を中心に県内向け需要への安定確保必要
- 非主食用への転換誘導等今後の主食用米作付面積は減少傾向見込
- 肉牛繁殖農家戸数の減少
- 子豚供給体制の維持が必要

生産基盤への係わり

- ドライバー不足深刻→消費地への安定・継続が課題
- 集荷体制の整備必要 選果場従業員の確保難継続見通し
- 2024年問題による労働環境の変化へ対応必要
- 輸入資材を起点とした生産資材の価格増高・高騰
- 工場の安定稼働や製造原価の抑制に向けた数量確保が必要
- 飼料需要の減少に伴う商系業者の競争激化
- 大型法人や企業系畜産が増加傾向

物流対応問題 生産資材費削減 仕入多様化

- 農地集約進展による法人・大規模農家の増加見通し
- 系統利用率の低下

買取販売強化

- 消費形態の変化・多様化への対応が必要
- 卸売市場の弱体化→重点化・パートナー化必要
- 海外動向に大きく影響を受ける畜産物（輸入品・疾病等）

事業基盤

- 専門的な知識・技術を有した職員不足、高齢化
- 営農指導員減少や補助事業対応等による事務負担増大
→組合員に出向く本業に支障
- 営農指導員の技術力の平準化の必要性
- 複合環境制御等の新技術への対応必要
- 酪農県域指導体制構築

専門技術 人財育成

- カーボンニュートラルに向け脱炭素化の動きが進む
- 「みどりの食料システム戦略」に対応した事業モデルチェンジの必要性
- 「脱プラ・減プラ」など環境配慮取組み加速
- 国産飼料原料や食品残渣など飼料コスト抑制に努める動きが活性化
- 堆肥利用の減少による畜産農家への影響

SDGs

- 消費形態の変化・多様化、アフターコロナに向けた流通・消費形態の変化
- EC（電子商取引）等拡大による新たなプロモーション手法の必要性
- 卸売市場の弱体化→重点化・パートナー化必要
- 海外動向に大きく影響を受ける畜産物（輸入品・疾病等）

ブランディング

- 投資案件の増加
- 働きやすい職場づくり・人財育成の必要性の高まり
- DXへのニーズの高まり

経営基盤の強化

Our Catchphrase キャッチフレーズ

JA宮崎経済連グループでは、令和4年度にグループのキャッチフレーズを掲げ、キャッチフレーズを体現するシンボルマークやキャッチフレーズを制作しました。

これらを使用し、改めてJA宮崎経済連グループの役割を消費者へ理解醸成を図るとともに、グループ役職員が共通認識と誇りを持って業務に取り組んでいます。

「いのち」を、
「みらい」へ
つなぐ役割を &

いのちとは、いただきますとごちそうさまの間にあるもの。

たくさんの野菜や果物などの農作物、

牛や豚、鶏などの動物から、いただくいのち。

食べることは、いのちをつなぐこと。

いのちは、食べる人、育む人、みんなの笑顔をつなぐ。

地域とともに、自然とともに、

これからもずっと、つながっていきますように。

宮崎の、日本の、そして、地球のみらいへ。

私たちは、食を通じて「いのち」をつなぎ、

誰もが豊かに暮らせる「みらい」へつなぐための役割を果たします。

園芸部

園芸部は、宮崎県内で生産された「野菜」「果物」「花卉」を全国へ安定供給するため、生産から販売まで一貫した指導・販売体制づくりを進めています。また、直販事業の拡大や耕種版インテグレーションモデルを確立し、生産基盤の維持と農業所得の向上を図ります。

生産基盤対策課



施設園芸ハウスでの農業実践による先進技術の確立



品質向上・生産拡大を目指した現地巡回指導



営農指導員の資質向上に向けた研修会の実施

野菜・果樹・花卉の生産振興、営農指導員の育成・研修

販売流通課



県内JAと一体となった販売や販促PR



付加価値をつけた差別化販売の取組み



集出荷施設・青果物輸送体制の整備に向けた取組み

青果物・花卉の販売、代金精算、物流体制の整備

園芸直販課



直接営業販売による売場の確保



集荷機能を活用した買取販売の強化



取引先・消費地ニーズに合わせた青果センター独自の加工・包装

青果物の買取販売、取引先への直接営業販売、青果物の加工・包装（青果センター）

営業所



東京営業所

関東・東北・甲信越地区への営業推進



大阪営業所

中部・近畿・岡山地区への営業推進



福岡営業所

中四国・九州地区への営業推進

市場や量販店などの取引先への営業推進、新規ルート販売先の開拓

米穀特産推進部

米穀特産推進部は、宮崎県内で生産された「宮崎米」「みやざき茶」「乾しいたけ（原木栽培）」の全国への販売、加工業務向け野菜の推進をしています。また、米・茶・乾しいたけの生産基盤の維持・拡大や加工業務向け野菜の耕種版インテグレーションモデルの確立などの水田と畑地の生産振興にも取り組んでいます。

米穀特産課



買取による集荷拡大と取引先への直接販売強化



品質及び産地評価向上に向けた取組み



安定生産に向けた平地型栽培の実証

米・茶・乾しいたけの販売、代金精算

契約加工推進課



無人トラクターの活用実証



機械化一貫体系に基づく収穫・集荷等の分業化



協同会社と連携した原料集荷体制の一元化

加工業務向け野菜の契約栽培推進、分業化に向けた機械化体系の構築、スマート農業の実践

資材部

資材部は、信頼される産地体制を目指し「安全・安心」な農産物を生産するために必要な肥料・農薬・農業機械・施設資材等を県下JAを通して組合員へ供給しています。

生産資材課

肥料・農薬・園芸資材・包装資材の取扱い、BB肥料の製造・供給



土壌診断に基づく適正施肥とBB肥料の普及推進



環境に配慮した天敵農薬の普及拡大



生産資材の専門知識を有した人財の育成

農機施設課

農業機械・部品・自動車の取扱い、中古農機・農機レンタルの取扱い、農業機械・自動車の整備、施設・ハウス等の設計及び施工監理



共同購入トラクターの推進



型式設定による低コスト農機の普及



農業機械レンタルの普及拡大

燃料生活部

燃料生活部は、組合員の営農と生活に必要な燃料・生活用品を供給しています。燃料事業体制の整備や必要とされる資材・サービスの提供など、組合員・地域住民の営農サポートやくらしの支援事業の仕組みづくりに取り組んでいます。

燃料課

石油・ガス類の取扱い、JA-SS・JA LPガスの指導研修



営農用・自動車用燃料やLPガスの安定供給



JA-S S店舗運営のモデル的取組み



保安・営業力強化にむけた人財育成

組織生活課

共同購入品・葬祭資材・地産地消商品の取扱い



JAや女性部を対象としたエコープマーク品研修会



JA葬祭サービスレベル向上のための研修及び人財育成



宮崎県産の果物や野菜の素材を活かした飲料

酪農飼料部

酪農飼料部は、家畜の健康と安全を飼料の安定供給と衛生対策で守るとともに、新鮮な生乳と卵の生産販売を支援し、畜産農家の所得確保と経営安定を図ります。
また、関係先との事業連携により生産基盤の維持・拡大及び生産性向上に取り組めます。

飼料養鶏課

飼料・畜産資材等の供給、鶏卵販売、養鶏生産技術指導



低コスト飼料の供給拡大



効率的な飼料製造及び供給体制の整備



養鶏基盤維持・拡大に向けた農家巡回指導

酪農課

生乳の集荷・販売、生産者への生産技術・品質指導



生乳生産基盤の維持・拡大に向けた乳牛素牛供給の取組み



生産性向上に向けた農家巡回指導



県産牛乳の消費拡大及び理解醸成活動

家畜衛生対策課

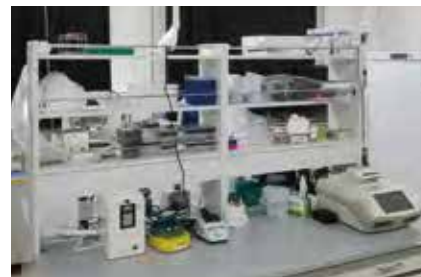
家畜の飼養衛生管理・防疫指導、家畜診療、受精卵事業、家畜衛生検査



防疫強化の啓発



生産基盤の維持に向けた受精卵事業強化



家畜衛生検査の強化

畜産部

畜産部は、宮崎県の畜産生産基盤の維持拡大・生産性向上を主軸とし、畜産農家の経営指導と飼養管理技術の指導を行うとともに、安全・安心な畜産物を消費者に安定供給するための生産から販売まで一貫した体制を進めています。また、関係先との事業連携を通じて畜産農家所得確保並びに経営安定化に取り組めます。

肉用牛課

肉用牛の取扱い、宮崎牛・県産牛の販売促進



生産基盤の維持・拡大に向けた農家巡回指導



安定的な肉牛集荷・販売体制の確立



宮崎牛のブランディングと販促強化

養豚課

子豚・種豚等の取扱い、肉豚販売促進、宮崎ブランドポークの普及促進



生産基盤の維持・拡大に向けた農家巡回指導



優良な子豚・種豚の安定供給



宮崎ブランドポークのプロモーション活動

養豚農場運営課

直営農場の運営、養豚生産システムの実証



子豚の安定供給体制づくり



オールイン・オールアウト方式実践



堆肥循環型農業の構築

事業戦略部

経済連グループが選ばれる組織となるため、新たな事業連携を推進するリーダーシップや効果的な広報活動、最適な輸出事業の構築を図るとともに、ニーズに対応した商品開発や指導購買と連動した検査・分析に取り組む地域農業への貢献を図ります。

事業推進課



広報番組

広報誌

事業連携、新規事業の企画、食農教育、広報PR活動、農産物のブランド確立推進、輸出事業推進、海外マーケティング活動の企画・実施



県外量販店でのフェア実施によるブランドPR



産地メリット還元を目的とした海外取引ルート開拓

開発検査課



生産から販売まで一体となったニーズ対応型商品の開発



検査・分析を活かした安全・安心の取組み



教育機関と連携した「共同研究」の取組み

経営企画部

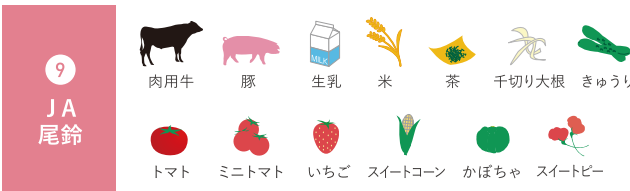
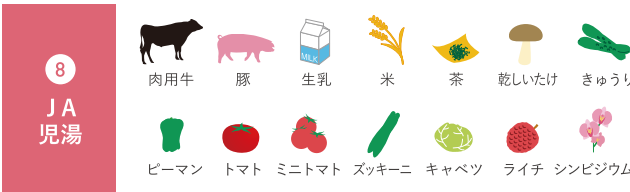
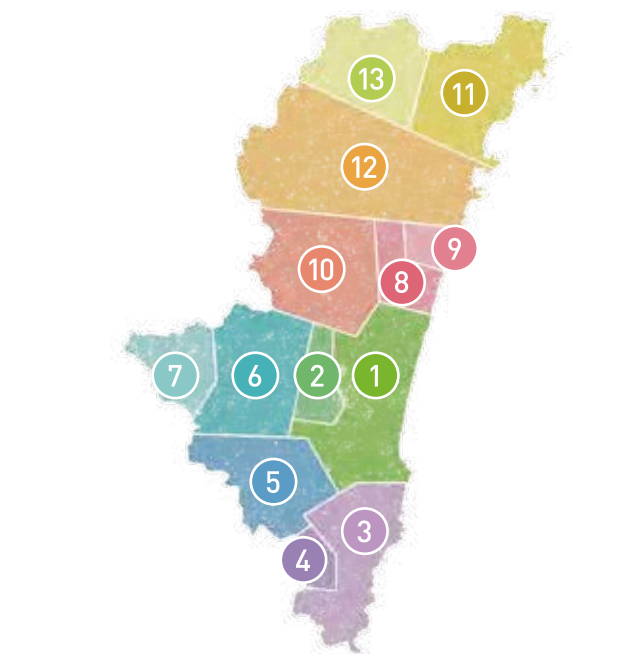
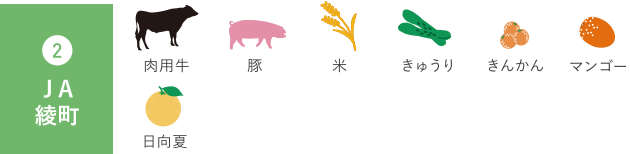
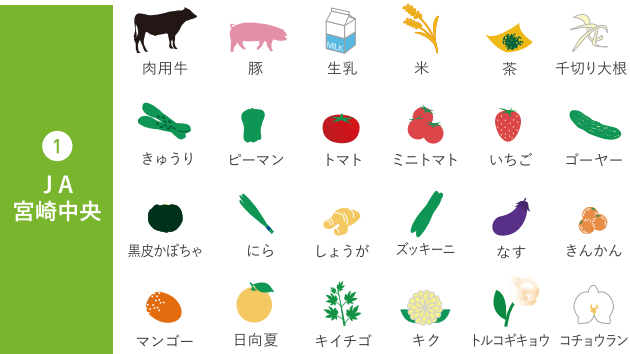
経営企画課：経営方針策定、事業計画及び予算の統制、決算、管財、税務
財務課：債権保全管理、債務管理、資金管理
関連事業課：協同会社の運営管理及び新規事業の企画

総務部

総務課：人事・給与・労務管理、採用、教育研修、人財育成
コンプライアンス推進課：コンプライアンス推進、内部検査業務

産地マップ

県内JAの
主要農畜産物





Our Brand みやざきブランドづくり

みやざきブランド推進本部は「新たな価値を創出し、みやざきブランドの信頼と情熱を次の世代へ」を基本目標として、生産・販売・PRが一体となり「6つの戦略」を展開します。

戦略
1



豊かで競争力のある「産地づくり」

- ①労働力減少に対応した新たな生産基盤の構築
- ②スマート農業の普及・定着化
- ③環境配慮と生産性の両立

戦略
2



将来の産地を担う「人づくり」

- ①産地の信頼を支える人づくり
- ②多様な経営体に対応したサポート体制の構築
- ③連携による労働力の確保

基本目標

新たな価値を創出し、
宮崎ブランドの信頼と
情熱を次の世代へ。

戦略
6



心をつかむ「ファンづくり」

- ①ブランドイメージとモノの価値が連動したプロモーション
- ②デジタルマーケティングによる新たなファンづくり

戦略
5



マーケットが求める「取引づくり」

- ①取引先と連携した農畜産物の価値向上
- ②世界市場を見据えたみやざきブランドの展開

戦略
4



新しい価値観に対応した「商品づくり」

- ①消費者と実需者の新しい価値観に寄り添った商品づくり

産地と消費者をつなぐみやざきブランド

6つの戦略に基づき、産地から消費者まで価値をつなぐ取組みを実践しています。

Promotion 001

「安全・安心・持続可能な農業」を産地から消費者へ

全てのブランド産地において「GAPの取組」の普及・定着への支援や、モデル産地での「GAP認証取得」に向けた具体的支援に取組むとともに、価値を伝える商品づくりに取組んでいます。



Promotion 002

「産地の想いを伝えるパートナー」との安定した取引づくり

ブランド戦略を共有する「ブランド・バリューチェーンパートナー」との安定した取引継続のために、トップ会議や営業強化に取り組んでいます。また「Karada Good Miyazaki」を基軸としたPRやデジタルツールを活用したフェアの実施により、みやざきブランドの定着とファンづくりに取り組んでいます。



Promotion 003

「オールみやざき」で取組む情報・魅力発信！

食に携わる飲食業や製造業に加え、様々な業種と産地が一体となり、商品・取引づくりや、みやざきブランドの情報・魅力発信に取り組めます。



みやざき
ブランド
推進本部
Webサイト



みやざき
ブランド
推進本部
facebook



Karada
Good
Miyazaki
Webサイト



Our Initiative 安全安心の取組み

GAP の取組み

GAP は「農業生産工程管理」とも言われ、農業経営や生産現場に潜む様々なリスク（食品安全・環境保全・労働安全など）に対応する継続的な「改善活動」です。「安全・安心」な農畜産物の安定供給を行うための農業生産の基礎として、また農家経営とリスクから産地を守るために「GAP 取組み」の普及・定着化を目指します。



園芸の取組み

「整理・整頓・清掃・清潔・セーフティ」からなる「みやぎきブランド産地のGAPルール（5S活動）」をもとに「GAP取組み」の普及・定着化及び認証性GAPの団体認証に向けた支援を行っています。



茶の取組み

茶の品質及び安全性向上に向けた取組みの一環と、販売先ニーズへ対応するため、第三者認証GAPの取得・維持・拡大に向けた支援を行っています。



畜産の取組み

衛生対策・生産管理体制の統一化を図り、生産性向上に向けた取組みの一環として、養豚直営農場でJGAP認証を取得しました。今後も直営農場にて認証農場の拡大及び維持に取組みます。

Topic



GLOBAL G.A.P. の取組み

JA宮崎経済連は、関係各所とともに農産物生産管理の国際基準であるGLOBALG.A.P.の取組みを推進しています。

JAはまゆうピーマン部会の一部、JAえびの市ピーマン部会、JA尾鈴ミニトマト栽培グループ



(令和5年8月31日現在)

農畜産物の検査体制・品質管理

土壌診断や残留農薬検査、家畜衛生検査など総合的な検査・分析業務を通じ、農畜産物の信頼性を高めるとともに、結果に基づく営農指導強化に努めています。また協同会社への品質管理支援も行っています。



情熱みやぎき 農産物表示認証制度

化学合成農薬の使用回数や化学肥料（窒素成分）削減の基準値を満たした農産物を認証する制度です。食の安全・安心の確保と、環境負荷を低減した取組みを目指します。



牛トレーサビリティ

「牛がどこで生まれ、どこの誰が、どんな飼料を与えて育てたのか」を確認できるシステムです。個体識別番号で牛を一元管理し正確に伝達することで、食の安全性向上に努めています。

Web



Our SDGs

事業施策とSDGsとの関連



JA宮崎経済連の取組み



県内地域資源を活用したエコループシリーズ

sdgs initiatives 001

耕畜連携の取組みとして県内地域資源である堆肥を活用した BB 肥料である「エコループ」を開発し、県内 JA へ供給しています。化学肥料の一部を県内地域資源で代替することにより、地域資源の循環と化学肥料使用削減を行い、地域資源循環型の農業体系耕畜を図っています。



sdgs initiatives 002

県内外の学生や消費者に向けた本県産農畜産物への理解醸成を図るべく、食育活動を行っています。



sdgs initiatives 003

ドローンやロボットトラクタ等のスマート農業を活用する中で、有効性・効率化の検証をおこないながら、省力化・省人化を目的とした機械化体系構築に向けた実証を行っています。

Our Group Companies

協同会社・関連法人紹介

株式会社ミヤチク



〒889-4505
都城市高崎町大牟田4251-3
TEL: 0986-62-2901
FAX: 0986-62-5529

事業内容 肉畜生産・と畜・加工・販売、直売店・飲食店運営

認 証 ISO22000 (2010.4)



宮崎県農協果汁株式会社



〒889-1301
児湯郡川南町大字川南20016-3
TEL: 0983-27-1111
FAX: 0983-27-4584

事業内容 清涼飲料水製造・販売、農産加工品製造・販売

認 証 ISO9001 (2008.9)
FSSC22000 (2013.4)



株式会社くみあい青果



〒880-0834
宮崎市新別府町雀田1185
TEL: 0985-28-1217
FAX: 0985-27-8807

事業内容 青果仲卸業務、加工業務



株式会社ビブレール宮崎



〒880-0841
宮崎市吉村町井手ノ中甲803
TEL: 0985-65-3316
FAX: 0985-65-3328

事業内容 ギフト・オフィス用品・配置薬販売、建設請負、介護福祉用品ショップ、デイサービス、高齢者向け住宅 他



株式会社エコープみやざき



〒880-2114
宮崎市大字富吉1223番地
TEL: 0985-89-6100
FAX: 0985-89-6125

事業内容 食料品・日用品・衣料品・酒類等販売、生鮮食品等加工・販売



株式会社宮崎経済連直販



〒880-0211
宮崎市佐土原町下田島河添19323-1
TEL: 0985-89-6180
FAX: 0985-89-6181

事業内容 農林畜水産物（茶、千切大根、椎茸、開発商品他）販売・加工包装販売 他

認 証 JAS認証 (2006.12) ※茶



ジェイエイ・アグリシード株式会社



〒884-0005
児湯郡高鍋町大字持田5734
TEL: 0983-22-3081
FAX: 0983-22-3083

事業内容 接木苗（野菜）生産、種子、園芸資材販売



宮崎石油基地株式会社



〒880-0851
宮崎市港東三丁目7
TEL: 0985-60-5140
FAX: 0985-60-5141

事業内容 石油製品受入、出荷、保管、品質分析



株式会社ミヤベイ直販



〒880-0212
宮崎市佐土原町下那珂字下ノ山2940-32(石崎工業団地内)
TEL: 0985-72-1500
FAX: 0985-72-1600

事業内容 米穀販売、搗精、加工、保管、輸送・集荷

認 証 精米HACCP (2017.3)



株式会社宮崎農産



〒884-0102
児湯郡木城町大字椎木801-1
TEL: 0983-32-3894
FAX: 0983-32-3895

事業内容 漬物製造・販売

認 証 JAS認証 (1987.7)



株式会社ジェイエイフーズみやざき



〒881-0027
西都市大字南方3398-2
TEL: 0983-43-5351
FAX: 0983-43-5372

事業内容 冷凍野菜・カット野菜製造・販売、自社農場運営

認 証 GLOBAL G.A.P. (2018.5)
FSSC22000 (2018.8)



一般社団法人宮崎県酪農公社



〒885-0224
都城市御池町無番地
TEL: 0986-33-1816
FAX: 0986-33-1709

事業内容 乳用牛預託事業（保育・育成）、生乳生産、肉用牛（和牛繁殖・受精卵供給）、飼料生産



株式会社霧島農産



〒886-0006
小林市北西方734-120
TEL: 0984-27-0061
FAX: 0984-27-0063

事業内容 漬物製造・販売

認 証 JAS認証 (1987.7)
ISO9001 (2012.8)



株式会社JA物流みやざき



〒880-0032
宮崎市霧島1丁目1番地1 JAビル5F
TEL: 0985-31-2120
FAX: 0985-23-3755

事業内容 農畜産物保管輸送、利用運送事業、一般貨物自動車運送事業



全農チキンフーズ株式会社



〒108-0075
東京都港区港南二丁目12-33
品川キャナルビル4F
TEL: 03-6864-0200
FAX: 03-6864-0172

事業内容 食鳥・関連食肉販売、畜産物加工・加工品販売

宮崎くみあいチキンフーズ株式会社

〒880-0943 宮崎市生目台西3丁目2-2
TEL: 0985-89-6160 FAX: 0985-89-6165



南日本くみあい飼料株式会社



〒890-0064
鹿児島市鴨池新町15農協会館7F
TEL: 099-258-5681
FAX: 099-254-7667

事業内容 配合飼料製造・販売

認 証 ISO9001(2003.11)



經濟連事務所・事業所所在地



〒880-8556 宮崎市霧島1丁目1番地1 JAビル4F・5F

(総務課) TEL 0985-31-2100 FAX 0985-31-5760

経済連各部署の連絡先

経営企画部（市外局番0985）

- ◆経営企画課 31-2127
- ◆財務課 31-2117
- ◆関連事業課 31-2406

総務部（市外局番0985）

◆総務課 31-2100
◆コンプライアンス推進課 31-2129

事業戦略部（市外局番0985）

◆事業推進課 31-2150
◆開発検査課 63-5641

園芸部（市外局番0985）

- ◆生産基盤対策課 31-2154
- ◆販売流通課 31-2162
- ◆園芸直販課 30-4525

米穀特産推進部（市外局番0985）

- ◆米穀特産課 31-2177
- ◆契約加工推進課 31-2168

資材部（市外局番0985）

- ◆生産資材課 31-2332
- ◆農機施設課 31-2351

燃料生活部（市外局番0985）

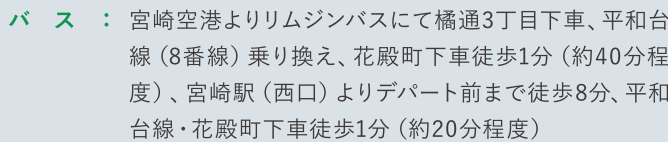
- ◆燃料課 31-2363
- ◆組織生活課 31-2302

酪農飼料部（市外局番0985）

- ◆飼料養鶏課 31-2140
- ◆酪農課 31-2128
- ◆家畜衛生対策課 31-2414

畜産部（市外局番0985）

- ◆肉用牛課 31-2130
- ◆養豚課 31-2134
- ◆養豚農場運営課 31-2233



タクシー： JR宮崎駅（西口）より10分
JR宮崎神宮駅より10分
宮交シティより15分

Our History 沿革

昭和 28年	3月	宮崎県販売農業協同組合連合会を宮崎県購買農業協同組合連合会が吸収合併
		宮崎県経済農業協同組合連合会発足
30年		大阪事務所開設
	1月	日南事務所完成
	2月	細島肥料配給所完成
32年	3月	第1回県下農協経済事業推進員大会開催
33年	5月	北九州事務所を門司より小倉に移転(S44年9月全販連に業務移管)
34年	4月	東京事務所開設
	11月	南部販購連を吸収合併(登記)
35年	9月	椎茸倉庫完成(日向)
36年	3月	花ヶ島飼料倉庫完成
37年	6月	椎茸低温倉庫完成
38年	4月	農協会館完成
39年	11月	川南畜産センター完成
40年	3月	畜産センター養鶏施設、花ヶ島倉庫完成
	5月	佐土原プロパン工場完成
	6月	畜産センター成鶏舎完成
	7月	花ヶ島サービスセンター完成
41年	6月	茶低温倉庫建設
42年	4月	日向椎茸低温倉庫完成
	11月	農業機械研修所完成
	12月	農業機械サービスセンター完成
43年	3月	(株)宮崎経済連飼料工場、北諸県農機センター完成
	7月	クミアイロパン工場容器検査場完成
44年	4月	西諸農機センター完成
	6月	総合集配センター完成
	12月	日南倉庫完成
45年	11月	門川プロパン工場完成
46年	3月	南九州くみあい飼料工場創立
	9月	食品センター工事完成
47年	1月	(株)宮崎経済連直販設立
	3月	都城プロパン工場完成
	7月	(株)宮崎経済連ブレイヤーセンター設立(S56年度まで)
	10月	農業管理センター、茶業センター、多目的恒温恒湿貯蔵庫完成
48年	2月	東京事務所移転(現・東京営業所)
	8月	Aコープ宮崎店設立(現・(株)ビブレアル宮崎)
		JA日向発足
	10月	Aコープチェーン宮崎県本部結成
	11月	(株)宮崎県農畜産物流通公社設立(現・(株)JA物流みやざき)
	12月	宮崎県果梨果汁(株)設立
		野菜消費地ストックポイント完成(川崎)

49年	1月	名古屋事務所開設（名古屋出張所H30年度まで）
	5月	JAこばやし発足
	7月	JA西都発足
	9月	プロイラーセンター都城工場完成
	10月	宮崎県農協果汁（株）果汁工場完成
50年	2月	JA都城、JA児湯、JA尾鈴発足
52年	6月	（株）くみあい青果設立
	12月	農畜産物専用船就航
53年	2月	JAえびの市発足
	7月	小林プロパン工場完成
54年	1月	（株）宮崎くみあい食肉設立
	7月	肥料供給センター完成
56年	5月	（株）霧島農産設立
	8月	（株）宮崎くみあい食肉、（株）県畜産公社を合併
	10月	広島事務所開設（H12年度まで）
57年	3月	中古農機センター開設
	4月	原種豚センター完成
		南日本くみあい飼料（株）発足
	5月	（株）宮崎農産設立
58年	9月	福岡事務所開設（S60年度まで）
59年	8月	土壌診断センター開設
61年	4月	総合情報システム稼動
		北九州事務所開設（H12年度まで）
63年	4月	（株）宮経ひなセンター設立
		宮崎県バイオテクノロジー種苗増殖センター開所
元年		大阪営業所開設
	5月	東京営業所事務所移転
	11月	コメ仲卸業務開始（パールライス）
	12月	アンテナショップ（ロサンゼルス）への農畜産物出品
2年	4月	花ヶ島別館・生活総合センター完成
	5月	JA延岡発足
	10月	米国向け牛肉輸出開始
3年	4月	事業本部制導入
	7月	早期米入札会の導入
4年	4月	宮崎くみあいチキンフーズ（株）設立（前（株）宮経ひなセンター）
		みやざきブランド確立推進本部設立
		農協マークが現在のJAマークに
	6月	米市場開放阻止JA代表者集会
		JA宮崎経済連 事業取扱高3,000億円達成
	11月	大阪営業所事務所移転
5年	3月	JAビル完成

5 年	4 月	ジェイエイ・アグリシード（株）設立
6 年	4 月	JA高千穂地区発足
	8 月	（社）宮崎県ジェイエイ食品開発研究所 設立（H31年度まで）
	9 月	ジェイエイ南九州燃料（株）設立
7 年	1 月	阪神大震災大阪営業所被災
8 年	2 月	JAはまゆう発足
9 年	2 月	JA宮崎中央発足
	11月	「焼肉レストランアパス」オープン（現 焼肉・鉄板焼ステーキ橋通りミヤチク）
10年	9 月	広域集配送センター完成（現・青果センター）
11年	6 月	養豚技術実践農場完成（現・養豚実証農場）
12年	2 月	新生「JAはまゆう」誕生（JA串間市と合併）
	8 月	肉用牛生産実証農場完成
	10月	「もっときっと店」（ヒブリアル宮崎） オープン
13年	2 月	福岡営業所開設
	4 月	宮崎県酪農農業協同組合連合会を合併 （株）宮崎くみあい食肉から（株）ミヤチ クに社名変更
	5 月	（株）ミヤチク宮崎市から高崎町に本社 移転（現・都城市高崎町）
	12月	「宮崎牛鉄板焼ステーキミヤチク」をオープン （現・鉄板焼ステーキ葉ミヤチク）
14年	3 月	（株）エーコープみやざき設立
15年	1 月	宮崎県農協果汁（株）ペットボトル生産 ライン新設
	4 月	宮崎石油基地（株）設立
	10月	経済連事業 創立50周年記念式典
16年	3 月	霧島集乳事業所完成
	5 月	肥料供給センター日向市から宮崎市に移転
	9 月	宮崎牛専門店「銀座みやちく」オープン （現・銀座不二家みやちく）
17年	7 月	クミアイプロパンセンター完成
18年	4 月	宮崎県JA農産物検査協議会設立
		宮崎牛専門店「大淀河畔みやちく」オープン
19年	3 月	高原種豚センター完成
	5 月	宮崎大学と産学連携協定
	6 月	妊娠牛供給センター綾農場完成
	10月	全国和牛能力共進会部門首席獲得
20年	4 月	農畜産物総合検査センター完成
		宮崎牛専門店「博多みやちく」オープン
	11月	大久保養豚実証農場取得
	12月	ジェイエイエネサブリック西都SS完成
22年	4 月	（株）ミヤベイ直販、（株）ジェイエイフース みやざき設立
	8 月	口蹄疫発生に伴う畜産防疫対策本部設置 口蹄疫終息宣言、新生みやざきの畜産総 決起大会

23年	3月	新燃岳降灰対策
24年	8月	香港事務所開設
	10月	全国和牛能力共進会2連覇
25年	2月	豚肉レストラン「アグリナ」オープン (現・とんかつ・しゃぶしゃぶミヤチク)
26年	2月	宮崎県農協果汁(株) 新ライン新設
	4月	「鉄板焼ステーキ延岡みやちく」オープン (H30年度まで)
	9月	「宮崎牛鉄板焼ステーキみやざき館」を 大飯心斎橋にオープン
27年	4月	「Aコブオランヴェル」オープン
28年	6月	もっときっと総合福祉施設グランドオープン
29年	3月	宮崎県農協果汁(株) 日向夏の骨代謝改善 機能の共同研究・商品化
	9月	全国和牛能力共進会内閣総理大臣賞3 大会連続受賞
	12月	ピーマン「栄養機能食品」の販売開始
30年	5月	(株) ジェイエイフーズみやざき冷凍ほう れんそう「機能性表示食品」として受理 (株) ジェイエイフーズみやざき 「GLOBAL G.A.P.」取得 みやざき完熟マンゴー「太陽のタマゴ」 20周年
31年	1月	完熟さんかん「栄養機能食品」の販売開始
	3月	(株) ミヤチク都農工場完成
元年	6月	(株) 宮崎くみあいチキンフーズ川南食品 工場完成
	8月	(株) ミヤチクEU向け輸出開始
	9月	宮崎大学オフィス開所
2年	3月	施設園芸ハウスでの栽培開始
	4月	「GLOBAL G.A.P.」団体認証取得
3年	5月	ゴーヤ「栄養機能食品」の販売開始
	5月	養豚実証山田第二肥育農場完成
	9月	(株) 宮崎経済連直販花ヶ島町から 佐土原町に本社移転
4年	2月	JA宮崎中央とJA宮崎経済連による自動 車整備工場共同運営開始
	4月	茶流通センター花ヶ島町から富吉地区へ 「茶総合拠点」として新築移転
	6月	養豚実証綾繁殖農場完成
		生活協同組合コープみやざきとJA宮崎 経済連グループが包括連携協定を締結
	9月	地域資源活用BB肥料「エコループ」シ リーズ供給開始
	10月	全国和牛能力共進会内閣総理大臣賞4 大会連続受賞
5年	4月	経済連事業 創立70周年記念
	6月	宮崎牛専門店「那覇みやちく」オープン
	5月	みやざき完熟マンゴー「太陽のタマゴ」 25周年